

2 第2次北九州市生物多様性戦略の基本目標と方向性

戦略の5つの基本目標

基本理念の実現を目指すにあたり、取り組みを着実に推進するため戦略の基本目標を設定します。

12の方向性の設定

基本目標の達成のために、取り組む施策の方向性を設定します。

1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

方向性1

- ・自然環境にふれあう機会の創出

方向性3

- ・里地里山の利用と活用

方向性2

- ・農林水産業の活性化と地産地消を通じたふれあいの推進

2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

方向性1

- ・環境教育・学習の推進、普及啓発

方向性2

- ・自然環境に精通した人材の育成

3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

方向性1

- ・生態系ネットワークの形成

方向性3

- ・希少種の保全及び外来種の対策

方向性2

- ・地域固有の生態系の保全と利用

4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持

方向性1

- ・自然と調和した都市基盤整備の促進

方向性2

- ・事業の実施に伴う環境配慮

5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

方向性1

- ・自然環境調査の実施とデータベースの構築

方向性2

- ・市民参加による自然環境情報の収集



3 自然ネットの取り組み

自然ネットは、さまざまな活動を主催、もしくは開催協力を行った。

学習・交流

1 自然講演会 昆虫写真家 栗林 慧氏

実施：令和2年10月3日 響灘ビオトープ
参加者数：50人
主催：自然ネット

エコライフステージ2020へ出展
(講演会の様子をWEB上に期間限定で公開)



栗林慧写真展

実施：令和2年10月4日～18日
主催：自然ネット



2 園内ガイドツアー

実施：令和2年10月3日 響灘ビオトープ
参加者数：50人
主催：自然ネット



実践活動

3 自然環境体感講座などへの協力

一般市民を対象に気軽に参加できるツアーという形式で幅広く参加を呼びかけ、「生物多様性保全の重要性」、「自然環境保全の重要性」を啓発することを目的とする。
また、保全活動を進める上で自然ネット参加団体の活動は重要な位置を占めている。この啓発を通じて、実際に本ツアーに参加した市民が保全活動に参加し、自然ネット参加団体の活動の活性化に寄与することを工事目的に置く。

すごいぞ！北九州の自然(西部編)
実施：令和2年9月26日 響灘ビオトープ、八幡薬師会附属用植物園
参加者数：19人



すごいぞ！北九州の自然(曽根干潟編)
実施：令和2年11月7日 曽根干潟
参加者数：28人



平尾台の秋を感じよう
実施：令和元年11月17日 平尾台
参加者数：37人

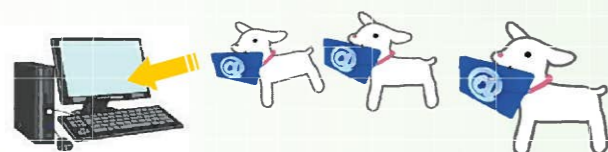


情報の発信

1 情報の発信

■情報誌「自然ネットだより」の発行
自然環境活動情報や会員の活動情報などを自然ネット会員へ伝える情報誌を発行(年6回)

■「メールマガジン」の発信
自然環境活動情報を自然ネット会員へパソコン・携帯メールで配信(月2回程度)



自然ネット参加団体の取り組み(50音順)

NPO・市民の取り組み

北九州市立市丸小学校 小倉南区

実施内容

活動名称 地域の人・もの・ことのかかわりを通して主体的に学ぶ生活科・総合的な学習の時間

2019年の取り組み内容

目的趣旨 市丸(東谷)地区の自然豊かな環境を生かした体験活動を全学年を通して本校独自の教育課程として編成し、児童が主体的に取り組む教育活動を展開・実践する。

活動内容 地域環境を「人・もの・こと」の視点でとらえて開発した地域教材の検証・見直しを行い、児童が主体的に取り組む学習展開を工夫して以下の実践を行った。

- 1年生→「学校だいすき」「いきもの なかよし」
- 2年生→「おいしくそだて わたしの野菜」「もっと なかよし 市丸たんけん」
- 3年生→「夏野菜を育てよう」
- 4年生→「守ろう!里山の自然」
- 5年生→「めざせ!米づくり名人」
- 6年生→「守り広げよう!市丸の宝ガシャモク」



6年 お糸池水質調査

6年 しじみ放流・観察

成果 教材の時期を見直したり、他教科との関連を図ったりして、従来の教材の見直しを行うことができた。また、各学年で場に応じた思考のツールを活用して学習展開を工夫することで、地域の「人・もの・こと」のよさを感じ、主体的に学習活動に取り組む児童の姿が見られた。

課題 今後も、よりよい環境の創造や保全に主体的に取り組む態度や能力の育成を図ること。

今後の展開

来年度もこれらの教材を児童の実態をもとに見直し、教育課程に位置付けると共に、故郷「市丸」のよさを語る事ができる児童を育てていきたい。

今町校区まちづくり協議会 小倉北区

実施内容

活動名称 紫川をシンボルとしたまちづくり
～紫川ウォーキング、川辺のキャンプ、紫川大清掃～

2020年の取り組み内容

目的趣旨 紫川は校区の東側に接し南北に流れる。この紫川を母なる川として愛し、自然環境を保全しようとする住民の心を育む。自然を大切にし、自然を守っていくことの大切さを感じ取ることを活動の基本とする。

活動内容 ・野鳥観察(紫川・曽根干潟)
・紫川清掃(校区住民のほか、清掃活動)

成果 河川清掃は、毎月ボランティアが行っている。特に、春のアユ放流祭の日に行われる紫川河川清掃には、多数の地域住民の他、小学生と中学生も参加する。紫川ウォーキングでは、紫川河川敷のコースで年長者と子どもたちの交流が図られている。



課題 これまでの取組から、地域住民の環境への意識の高まりがあるが、まだ一部には理解が徹底されていない。今後一層、連携して校区内外の住民の環境保全の意識をさらに高めることが必要だ。

今後の展開

清流の象徴「アユ」がいつでも眺められる紫川の復活を目指す。今後も流域各校区の連携を図り、取組を工夫して参加者を増やしていきたい。

NPO法人環境ネットワーク 小倉北区

実施内容

活動名称 平尾台ツアーの運営

2020年の取り組み内容

目的趣旨 市民に対し、生物多様性の重要性と啓発を目的とし、北九州市の自然を体感してもらうため、平尾台の自然環境に関するツアーを開催。

活動内容 平尾台自然の郷のガイドの協力の元、3グループに班分けし平尾台内ドリーネの底の探検、秋の野草や石灰岩の説明を受け、自然の郷内も散策しました。最後に展望台から「やまびこ」体験もしました。

成果 身近にある自然に触れることで驚きや共感が得られ、平尾台の地質の変化による地球の変動にも興味をもってもらえたと思います。



今後の展開

ガイドによる説明は知識の泉です。このようなツアーを継続することで環境保全、洞窟探検、地形、地質などを知り、平尾台の魅力伝えていきたいと思ひます。

北九州インタープリテーション研究会

小倉南区

実施内容

活動名称 北九州の身近な自然を伝えるインタープリテーション

2020年の取り組み内容

目的・趣旨

布絵シアターで、コロナ禍で自然との触れ合いが少なかった子どもたちの活動を支援

活動内容

2021年：市民センターにて布絵シアター「くいしんぼうの蛍くん」上演と蛍のペーパーアート作り(青山市民センター)

「里山動物えかき歌」ワークショップ・ネイチャーゲームと絵本づくり・紙芝居(清水市民センター)

「曽根干潟・春夏秋冬」自然ネット主催のバスツアーなど



北九州グリーンヘルパーの会

門司区

実施内容

活動名称 里山保全事業(小倉南区合馬地区:竹林整備、植樹他) 農事体験事業(小倉南区徳吉地区:休耕地の有効活用)

2020年の取り組み内容

目的・趣旨

合馬地区には約300ha竹林が存在すると云われている。その内100haは管理されて竹が生産されている。残る200haは放置状態で荒廃が進んでいる。当会に管理を託された部分は0.5haと小規模だが、少しでも地域の竹林を整備保全する。会の目的である「未来に美しい豊かな自然を残す育てる」を胸に、会員相互の交流・研修の場として委託された地区の整備と維持管理及び植生回復に努める。伐竹材を活用した自然環境学習活動(出前教室・夏)を拡げる。農事体験を通じて里地環境の保全(休耕地の有効利用)に努める。

活動内容

里山・里地保全事業:
竹林整備(竹林間伐・竹掘り)
竹林全伐・跡地の自然植生回復(市・自然環境保全活動支援による助成)
出前教室による自然環境学習(夏=ソーメン流し/各区市民センターなどで開催)
休耕地で野菜や各種植物の栽培(安全・安心野菜作りに挑戦)
他団体の応援
鳥のさえずる緑の回廊植樹(若松区)・・・コロナ禍の為中止



出前教室ソーメン流し(2019)

新竹林フィールド

成果

竹林間伐の結果、竹が間伐地内に沢山生えて顔を出すようになった。2019.3月より新しい放置竹林で環境整備を始めた。この2年間の竹林整備活動で3分の1ほどのエリアの枯れ竹等を整理し、見違える様な竹林に甦っている。

課題

現在、23名の会員がいるが、会の趣旨を理解し、自然環境保全に興味があり、意欲的な方への入会を期待している。年齢性別を問わず、随時募集中。里山里地の自然環境を整え、将来に豊かな自然を残すことを夢見るあなた、是非、ご参加ください。活動で汗を流し、自然もあなたも健康体になり、自然の恵み(竹や野菜など)にあずかる喜び。待っています。

今後の展開

若い人が合馬の地(自然)に親しんでもらいたい。北九州市内の学生さんなどと交流深め、子どもたちに自然の大切さを知ってもらう機会を増やしたい。

北九州植物友の会

小倉北区

実施内容

活動名称 自然観察

2020年の取り組み内容

目的・趣旨

植物を通して自然を正しく理解し、快適な自然環境の保全、地域文化の向上に寄与することを目的とする。この目的を達成するために例会、同定会、研究会等の行事を行う。

活動内容

コロナ禍により、計画された月例会の変更を余儀なくされた。野外観察会ならびに室内学習会・同定会は中止4回。観察地変更3回で月例会は年8回となった。会員数36名。例会参加者計87名。友の会誌「北九州植物友の会会報」A版オールカラー年1回発行。

成果

野外観察会月例報告6件、会員個人による活動報告5件ならびに研究報告1件をA4版30頁(会員数36名)の北九州植物友の会会報第43号に掲載した。



課題

さらなる活動の活性化のためには、会員の平均年齢上昇に歯止めをかけるために、若い世代の会員を増やしていく必要がある。

今後の展開

長年の間、開催してきた月1回の野外観察会・室内研究会・同定会ならびに年1回の友の会会報の発行を継続していくことを第一義として活動していきたい。

NPO法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会

若松区

実施内容

活動名称 平成竹取伝説

2020年の取り組み内容

目的・趣旨

合馬の竹がブランド化する北九州市であるが、放置により荒廃する竹林・里山も少なくない。そこで、北九州学術研究都市およびその周辺の竹林・里山を市民・NPO・企業が協働し、生物多様性や景観の保全を図るものである。

活動内容

2004年1月から毎月1回(原則第二土曜日9:30~12:00)、市民・NPO・企業が協働し、竹林・里山の保全活動を実施

成果

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため2020年度の毎月一般市民参加による竹林保全活動は休止したが、会員と協力団体により採取した竹を使い青竹踏み制作やエコ門松づくりなどは途切れさせず実施できた。

課題

今まで主に人の目の届かない森林竹林で活動してきたが、地域からも良く目につく里山で活動することの重要性を感じ、これからは地域に根ざした活動や人材育成にも努める。



今後の展開

今まで竹林で間伐作業を主に活動を行ってきたが、これからは住宅近隣の里山全体の健全化を目指す活動を展開し、見える化を図りながら無関心層にもアプローチしていく。

NPO法人 北九州国際自然大学校

小倉南区

実施内容

活動名称 環境戦士 アースマン

2019年の取り組み内容

目的・趣旨

次の世代の子どもたちに解り易く楽しく、環境を学んでいただきたい。

活動内容

環境戦士アースマンというローカルヒーローと、地球を汚して、自分たちの住処にすることをたくらんでいる悪の軍団デスゾールの首領キドラ将軍と怪人たちのオリジナルキャラクターショーを地域や幼稚園・保育園で、行なっています。

絵本の販売やアースマンのテーマ曲のCDの販売も行なっています。

成果

北九州青年会議所や小倉南区社会福祉協議会プチボなどの団体とのコラボレーションや地域からの要請に答えています。「愛・地球博」といった全国規模のイベントにも出演したり、福岡の海の中道でのイベントは、毎年の恒例となっています。



今後の展開

現在も大学生たちとコラボレーションしていますが、更に輪を広げていきたいと思っています。

北九州ほたるの会

小倉北区

実施内容

活動名称 2019ほたるサミット北九州

2019年の取り組み内容

目的・趣旨

日本一のホタルの里を目指す6市町村の首長が一同に会し、ホタルを通じて生活環境整備や観光・経済・文化交流等を促進し活力ある緑豊かなふるさとづくりを推進

活動内容

2019年5月24日(金)~25日(土)、『2019ほたるサミット北九州』が開催された。24日の歓迎式に始まり、水環境館などの市内施設の視察を行い、25日のサミット・レセプションには240名の方に参加いただいた。

成果

市内で活動している小中学校の報告ができ、また、親水空間として生まれ変わった副都心黒崎の撥川で、地域・学校が育てている街中で見られるゲンジボタルと、そのホタルの育成をきっかけに始まったホタル祭りに参加市町の皆様を迎えることができ、多くの方に本市でのほたるに関する活動を知っていただけた。



今後の展開

今後も引き続きアドバイザー活動を行って地域活動の支援をすると同時に、韓国、マレーシア、シンガポール、香港、台湾、中国等とホタルを通じた国際交流の輪を広げていきたい。